加茂里山通信

平成２８年 新年号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
編集長 征矢貫造

月出校舎から月出工舎へ！

加茂地区の５つの廃校舎の中で一番早く廃校となった旧月出小の校舎が生まれ変わります。２０１４年のアート×ミックスの際には校舎内のものが大胆に取り外されたり片付けられたりして、校舎、校庭、プール、そしてその上の台地まで活用され、多彩な企画が展開されました。その月出校舎の利活用計画が総務省の地方創世に関わる公募に応募して採択され、リノベーション（既存の建物に大規模な改修工事を行い、用途や機能を変更して性能を向上させたり付加価値をあたえること）が始まっています。どのような経緯を経てどのように変わり、どのような方向に向かっていくのか。月出工舎の岩間 賢（いわま さとし）さんに思いを語っていただきました。岩間さんは１９７４年生まれの千葉県出身の美術家です。

（編集部）

皆さま、明けましておめでとうございます。今年は「月出工舎」の真価が問われる年となります。この一年が正念場だと心得て精一杯努力する所存です。

この紙面を拝借して、これまでの「月出工舎」のこと、取り組みをはじめようとしていること、今から地続きの１０年後の未来になにを目指していこうとしているのかお話しをさせていただきます。

これまでの経緯

現在、日本が抱える問題の縮図と例えられる市原市の現状において、特に南市原では少子高齢化の進行による過疎対策と地域活性化計画が必要不可欠となっていることはご存知の方も多いと思います。そうした中で２０１３年春に市原市に小中一貫教育校「加茂学園」が誕生し、南市原では４つの小学校が閉校しました。

２０１４年に市原市では、大地の芸術祭や瀬戸内国際芸術祭などで総合ディレクターを務める北川フラム氏を迎え、課題解決型芸術祭として「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス」を開催しました。この開催に合わせて、わたしは２０１１年より市原市の白鳥公民館を拠点に舞踏家の松原東洋氏をメンバーに加えて、ちんどん屋という表現方法で養老渓谷をはじめとする市内各所を練り歩きながら少しずつ何ができるか考えていきました。その中で里山芸術劇場をつくる企画を立案し、２０１４年の国際芸術祭では「よほろ～養老舞踏バラエティーショウ！～」の公演をしました。その後、この里山芸術劇場は海外招聘作家を中心に白鳥エリアは展開されることになりました。

これと並行して「廃校を拠点に新たなプラットホームを創出したまちづくり」を進める計画があると北川氏からの説明を受け、市原市をはじめて訪れた２０１１年に月出る処（つきいづるところ）の地名が気になり辿り着いた、旧月出小学校のことを改めて思い起こしました。こっそりと通いはじめたのが２０１２年の夏頃でした。

そして北川氏と協議を重ね「月出の森」構想をまとめ、２０１４年にその第１期の基本プラン「月出創生計画」を実施する拠点に選んだのが旧月出小学校です。

芸術活動の拠点として生まれ変わります

月出工舎

廃校となった旧月出小学校を舞台に「遊・学・匠・食」の４つのプロジェクトを展開し「みんなでつくる新しいがっこう」として「中房総国際芸術祭 いちはらアート×ミックス」に合わせて開校したのが「月出工舎（ARS TSUKIDE）」です。

今から地続きの１０年後の未来を多視点な角度から捉え、美術も・建築も・音楽も・デザインも・ダンスも・農学も・社会学も・生命研究も・分野や世代を超えて共振する場をつくり、新しい世界観・知を創生することを目指しています。

ARS（アルス）とはARTの語源となるラテン語であり、「技・手腕・技術・学術・技芸・手仕事」を意味し、「技術の理論・法則・手引き」や「芸術の仕事・作品」という意味まで含みます。

「月出工舎」を開校させるために、地球規模の視野で考えながらも地場視点で表現活動をしている塙月洋生（建築家/岐阜在住）・岡博美（染織家/三重在住）・チョウハシトオル（焼芋家/神奈川在住）・高岡友美（東京在住）と永森志希乃（富山在住）ユニットである風景と食設計Hoo（クリエイター）を招聘して活動を開始しました。海外からは田中奈緒子（美術家/ドイツ在住）・竹村京（美術家/ドイツ在住）・XIAOMING（彫刻家/中国在住）を招聘してアーティスト・イン・レジデンス（滞在制作）のプログラムを実施しました。（活動詳細ホームページ http://tsukide.jp）

今から地続きの１０年後の未来をつくる「月出の森」構想

これまでの活動は「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス」の開催を通じて、創ることを生業にしている表現者が中心となって課題と解決の方法を提示しつつ、朦朧とした先にある不確かなようで確かなにかを探りながら取り組んできました。

これからは地域住民の方々をはじめ、これまで共に活動をしてきた菜の花プレイヤーさん、新たに出会う方々と真と信を考え、その先にある感幸の意味を問うことが必要になっていくと思っています。

「月出の森」構想では、月出る処に存在する森（＝ヒト・モノ・コト）にある様々な環境（例えば、水源地・寺社・空き家・竹林・県営キャンプ場・ゴルフ場・童産・農地・放棄地など）をARS FIELD（アルス フィールド）の場として再定義した活用方法を、地域住民×協働者×表現者が産・官・学・金・福・労・言（産＝産業・官＝役所・学＝教育と研究・金＝地域金融・福＝福祉・労＝労働・言＝地域メディア）との多様な交流とぶつかりを図りながら、市原市独自の「創ること・生きること」の革新的価値をつくっていくことが重要です。

革新的とはその土地にある地域特性や宝を発見・紡ぐこと、それらを発信するだけでなく、活かす方法をつくることだと考えています。時には前向きに諦めることを何よりも真剣に考えることも大切なことではないかと思うようになってきました。

入口を入ったところの今の状態

総務省「公共施設オープン・リノベーションマッチングコンペティション」の採択

２０１５年９月３０日に「旧月出小学校の利活用」の計画が採択され、総務省の地方創生に関する実証調査事業として、同省が提案自治体である市原市と委託契約を結び事業化（全国８自治体が採択）を進めています。

市原市が課題解決型芸術祭として事業を実施した「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス」は様々な問題が提示されたことは誰もが感じているはずです。課題を発見するという目的は達成できたわけですが、目先の課題解決に追われてしまい、その先にある活かす術と姿を構築できていなかったと思います。

芸術祭閉幕直後から「月出工舎」の活動にご理解をいただいていた月出町会をはじめ、主体的に取り組んでいただいた菜の花プレイヤーさんには霧の中での活動状況が続いている時期も長かったわけですが、志と想いをもって関わっていただいたことが総務省から大きく評価されました。また、市原市の「廃校を拠点に新たなプラットホームを創出したまちづくり」の未来創造の評価が高かったことが採択理由となっています。

今は物置ですがいずれ美術館に

「月出工舎」として提案した内容や他の自治体の採択情報などは、総務省のホームページから閲覧ができます。この紙面をお借りして、多大なご協力をいただいたみなさまに心からお礼を申し上げます。

「みんなでつくる新しいがっこう」は、これからが本当のはじまりです。本年４月にスタートできるよう１月５日から第２期の改修工事がはじまりました。並行して「月出工舎」の持続的運営と「月出の森」構想を実現するために一般社団法人Creative Lab SPICA（代表/岩間賢）を立ち上げたことをご報告します。

現在進めている改修工事とリノベーションのあるべき姿

市原のチベットという素敵な隠れた呼称もある「月出工舎」ですが、改修中の様子をこの機会に見に来ていただくことが何もより嬉しいです。冬時期の森の葉が少ない江戸小道の古道散歩は、遠方まで見渡すことができるのでおすすめです。見学ご希望の方はinfo@tsukide.jpまでご連絡をください。

「月出工舎」の改修方法はセルフビルドという仕組みをとっており、今回の改修で使う土壁の素材を例に話すと、象の国の象糞＋地元の藁などを土と混ぜて2年ほど熟成させたモノです。伝統的な左官技術と表現者が培ってきた技術を融合させて土壁はつくられていきます。

いろいろな人の想いが残されています

このときに藁を拾い集め、押し切りという道具で切ったり、土を混ぜたり塗ったりすることなどは、菜の花プレイヤーさんのお力で支えられてきました。この藁を得るために、すでに別地で取り組んでいますが稲作をすることからはじめるという循環する仕組みを市原市でも取り組んでいけたらと思っています。収穫できたお米はもちろん活動時の糧になっていきます。今後は畑を耕作し、間伐など自然環境との共生を問う動きもはじまっていきます。

今回の総務省「公共施設オープン・リノベーション」というのは単に既存の建築を改修するだけではないと考えています。「月出工舎」では日本の「結」という考え方が活動の基本方針のひとつになっており、ヒト・モノ・コトの新たな価値づくりや持続的環境づくりなども含めています。この取り組みは「創ること・生きること」だけの考え方では永久持続的に取り組むことができません。今後は「働くこと・暮らすこと」とは一体どういうことなのか新たに問いながら模索していく必要もあると思っています。

また「月出工舎」を知ってしまったひとりひとりが当事者意識をもっていただけるような価値環境をつくり、世代や分野、生業、それぞれのルーツは異なったとしても、主たる役者として関われる場をつくっていけるように努力をしていく次第です。

どのような使い方ができるのか

わたし自身が「月出工舎」の基本企画や建築計画に関わっていますが、同工舎の建築設計は、岐阜を拠点に活動をしている塩月洋生氏によるものです。周囲の自然環境を活かし起伏に富んだ地形を壊さないように配慮しながらも、建物自体が大地から突き出る建築となっています。

校舎内は職員室を改修した食の工房をはじめ、音楽室は染色工房としてすでに稼働しています。教室は表現者や専門家の創作や展示スペースとして利用されていますが、今後は一般の方や企業、大学などでもご利用していただけるよう市原市観光課を通じて月出町会をはじめとする関係機関と運営方法の協議もはじまっています。

今回の改修工事では、地域の場としてのオープンスペースの機能と設備を充実させ、セミナーやシンポジウムの開催、「遊・学・匠・食」に関する創作活動を体験することができる施設へとスケールアップします。

特に「食」に関わる活動に重点を置いた改修となっており、市原市にある原材料を活用した商品やプロダクト開発を通じて地場ブランドの発展を目指しながら、地域で働くことを考えるきかっけとなる食品加工施設なども設置されます。さらにレジデンス機能を拡充させることで、子どもたちがアートキャンプの体験などができるようになっていきます。

この独特の建築空間は、表現者の創造力をかきたてるだけでなく、訪れる人にとっても刺激的な新しい価値を発見する場となるでしょう。今後は体育館を美術館として機能させ、木工工房やパフォーマンススタジオ、デザイン工房、版画工房なども順次立ち上げていけるよう取り組んでいきます。

（月出工舎　岩間　賢）

里山からの発信　里山の冬の情景

昨年の秋口から夜中の試運転を繰り返していた小湊鉄道の「里山トロッコ列車」の、試乗会1日目の最初の回に里見駅から参加することができました。雨上がりの後の青空が見え、暖かな最高の条件でした。遠くから汽笛が聞こえ、煙を吐きながら緩やかに木立の間から黒い機関車の姿が現れた時は映画かドラマのワンシーンのようでした。造りたての機関車はピカピカで美しく、昔の人のデザインセンスにも感心しました。

こんなに明るい車内

客車の天井はガラス張りで明るく、4両のうち2両は窓がなく自然との一体感があります。これで時速30キロ程度で走ると目に入るものがはっきり見えます。踏切で待つ軽トラの運転手や野良仕事の人たちとも顔を見合わせることができるため、お互いに自然と手を振ってしまいます。装飾部品が外れるというトラブルがありましたがそれも解決され、3月中旬の再開のためにこれからもどんどん試運転をするそうです。2000人の予約客が待っています。

キレイでカッコイイ 絵になる機関車です

同じく小湊鉄道に係わることですが、南部の駅のイルミネーションの飾りつけが今年も華やかでした。月崎駅はやはり見事に飾られていますが、今年力が入っていたのは飯給駅です。線路に沿って長く飾り付けられ、周りに灯りがないこともあって華やかに光り輝いていました。各駅にはそれぞれ担当のボランティアグループがいて早くから取り組んでいるところもあります。見えないそうした人たちの地道な活動が人の心に灯をともします。

月崎駅の飾りつけの一部

飯給駅の駅舎と線路に沿った飾りつけ

全国でも最も早い年明けのマラソンに属する市原高滝湖マラソンは今年で42回目を迎えました。雲一つない青空の下、加茂学園の男女二人の生徒の堂々とした選手宣誓の後、温かく風のないコンディションで2400人余りの選手たちが熱戦を繰り広げました。ジェフユナイテッドのマスコットキャラのユニティは子供たちに大人気で、あちらこちらに現れ大活躍。この大会でも各所でたくさんの人が裏方として大会を支えていました。

熱気あふれるハーフマラソンのスタート！

よろしくお願いします

地域の活性化は人の活性化です。何もないかのような加茂地区でもいろいろなことがあり、いろいろなところで支える人たちがいて、少しづつ動き始めてきているのではないかと感じられます。

（従矢里山通信員）

タケノコとフキを福島に！

昨年、一昨年と加茂地区のタケノコを福島に持っていき、いわきの人たちに配ることができました。昨年は集荷所の商工会議所加茂支部の前にフキも持ってきてくれて、現地で喜ばれました。昨年持って行ったタケノコの本数は４５０本ほど。今年はその倍以上の１０００本を目指します。併せてフキも募集します。

一人一人の持ち寄りは少なくとも、みんなで持ち寄ればたくさんのタケノコとフキを福島の人たちに届けることができます。

昨年は心のこもった礼状が届きました。またこの縁でいわきの久之浜の方たちがいちはら国府まつりに参加してくれました。交流が生まれようとしています。

ぜひ皆様の心意気を寄せていただきますよう、お願い申し上げます。

昨年の久之浜での様子

市原有志の会代表　藤田和利
市原商工会議所加茂支部
加茂里山通信編集部

魚屋の戯言　酢の話

台所に酢がない家庭はそう多くないでしょう。酢は料理の味付けはもちろん、強力な殺菌作用で食品の保存性を高めたり、肉を柔らかくしたり、あるいは食品の色の変化を防止するなどの作用がある非常に便利な調味料です。さらに、天然の醸造酢には血圧の上昇を抑える・動脈硬化の予防やカルシウムの吸収を助けるなどの効果もよく知られています。

字を見ても想像できるように酢と酒は非常に密接な関係を持ち、ヨーロッパには「酒あるところに必ず酢あり」ということわざがあります。酒の作り方を探る過程で酒を酢酸発酵させで酢を作る方法が発見されました。当初は大変な貴重品で貴族以外の庶民には届かない贅沢品だったと言われています。諸外国でも事情は似ていて酢のことをビネガーと言う国は数多くあり、多少の綴りの違いはあるものの共通して酸っぱいワインと言う意味をそのまま使っています。酒のある国にはそれぞれに酢の文化が発達しました。中国の紹興酒から作られる香醋、ワインを原料とするワインビネガー、その他、ジンやビールから作る酢も世界にはあるそうです。中でもイタリアのバルサミコ酢は非常に美味しく、チーズにかければチーズの美味しさを十全に引き出してくれますし、オリーブオイルとバルサミコを同量づつ混ぜるだけで上質のドレッシングになります。

酢の成分は3～5%が酢酸で、その他にはクエン酸・酒石酸などの有機酸をはじめ、種類によってはミネラル分も豊富に含まれています。これらの成分が疲労回復に効果があるのは改めて言う必要もないでしょう。疲れるという現象は疲労物質が体内から消費されずに溜まることによって起きますが、酢の成分である酢酸やクエン酸が疲労物質を消費する手助けをしてくれるために疲労回復の効果を感じられるのです。

また、カルシウムの吸収を助ける作用は骨粗しょう症になりにくい身体つくりに役立ちます。

魚屋でよく使うのは魚を酢で締める時です。三枚に下ろした新鮮な寒鯖にたっぷりの塩を振り、水分を抜いた後に薄皮を取り除いて酢で洗ってから昆布と共にもう一度酢に漬ければ美味しいしめ鯖ができます。夏場のいわしも同様にして締めると邪魔な小骨が溶けて食べ易く、しっかり脂がのったいわしの酢締めの出来上がり。食欲の落ちる夏には有りがたい酒肴です。

秋のさんまも酢がよく合います。卵の花漬けは言うに及ばず、甘露煮にするときに酢を加えて更に圧力鍋で煮れば固い中骨までホロホロと柔らかくなるので歯が弱ってる方にも安心してお勧めできる一品です。便利で美味しくてしかも健康増進に役立つなんてまさに一石三鳥。今年も酢を効率よく活用して美味しく元気でいたいと思う正月の魚屋でした。

（鈴木里山通信員）

里山のご馳走　小魚とくるみのくルシーおつまみ

くるみには、オメガ3脂肪酸の他、タンパク質やビタミン、食物繊維、マグネシウムといった栄養がギュッと詰まっています。小魚にはカルシウム、レーズンもミネラル豊富です。子供からお年寄りまでお勧めです。

材料

食べる小魚・・・４０ｇ
くるみ・・・３０ｇ
レーズン・・・２０ｇ
砂糖・・・大さじ３
水・・・大さじ１

作り方

① オーブンを１３０℃に温める。
② 天板にクッキングペーパーを敷いて小魚、くるみを入れる。
③ オーブンを１３０℃で５～６分加熱する。（フライパンで乾煎りしても可）
④ オーブンから取り出し、紙に広げて冷ます。
⑤ 鍋に砂糖と水を入れて火にかける。小さく泡立ち煮詰まってきたら小魚、くるみ、レーズンを入れて混ぜる。
⑥ 全体に混ざったら火を止めて箸でかき混ぜながら冷ます。
⑦ 砂糖が白っぽくまわりについたら、紙に広げて冷ます。

（大曾根R里山通信員）

加茂のNPO法人紹介　南市原夢街道

私たちＮＰＯ法人は1年間の準備期間を経て認可を取り、平成２５年４月に１５名で発足。目的は一言で言えば「南市原を元気にする」ことです。

最初は、里山の景観を良くするための草刈り・地域内外の方々に春秋の景観を楽しんでもらうためのウオーキング開催・ＮＰＯ更に以前から活動されていた里山連合の活動支援から始めました。私たちＮＰＯ法人は、歯止めのかからない過疎化や、休耕地の荒廃化に少しでも改善を加えたく、行政からの補助金に頼らず、会員各自の年会費を活動資金として、会員をもっと増やし、出来ることから少しずつ実現していくことにしています。

また、市原市の中でも南市原は特に高齢化が顕著であり、そのうえに救急救命体制が整っていないため、人命救助に難点があるとの専門家からの指摘もあり、２８年度から救急救命のインストラクターを多数育成し、人命救助の一助としたいと思っています。

このような使命を掲げ活動していく中で、資金的、人材的にも苦労しながら奮闘している状況で、昨年八月からは高滝神社下に「憩いの家」をオープンしました。気軽にお茶を飲んだり、軽食をしながら過ごす場所がなかったこの地域に、喫茶・甘味・軽食・焼きうどん・焼きそば・ラーメン等をメニューとし、更に地域の産物・工芸品・民芸品の販売や、高滝湖の景観を楽しんでもらう為、レンタサイクル・観光案内・釣り情報の提供等をおこなっています。今のところ営業日は土・日・祝日の１０時～１６時ですが、緩やかにご利用される方がふえております。

女性スタッフの皆さん　男性もいます

高滝神社下、前は高滝湖です

お客様からはメニューの追加要請を受けておりますが、ボランティアグループですので、限られた範囲での対応となっていることをお許し願いたく存じます。

湖には１１月～３月迄は毎年渡り鳥の鴨・冠かいつぶり・大バン・白鳥が飛来し、今盛りのワカサギ釣りのボートと共に冬の風物詩として賑わい、「憩いの家」から眺めながら過ごされるお客様の心を癒し、好評を頂いております。

更に神社の祭礼や地域の様々なイベントにも貢献しようとスタッフも少しずつ増やしながら、皆様にかわいがられる様努力しておりますので、どうぞお気楽にお越し頂きますよう、お待ち致しております。

（南市原夢街道理事長　篠宮秋吉）

人と環境が一体となって大切な未来へ
自然環境と人間との調和を目指して
杉田建材株式会社
本　社　市原市万田野 26　TEL 0436(96)1311
市原支店　市原市惣社1－1－22　TEL 0436(24)0511
南総支店　市原市牛久450－1　TEL 0436(50)0111
URL http://www.sugita-group.com/

作詞家＆歌手　NO MOSS
（作詞家名：藤野美代＆NO MOSS）
「竜舌蘭」も宜しくお願い申し上げます！

DAM、UGA　JOYSOUND配信
DAM：#2105-14（竜舌蘭）
問い合わせ
(株)音楽プロデューサー NO MOSS
居酒屋 大ちゃん 2
市原市迎田229－3
TEL 090-2629-9600　藤野美代

おめでとう！輝け！加茂の新成人

1月10日，加茂公民館で成人式が開催されました。今年の対象者は45名。阪神淡路大震災の年に生まれ、中学校の卒業式の翌日に東日本大震災を経験した新成人たち。バブル崩壊から失われた20年などといわれる時代に幼少期を過ごし、リーマンショックなど激動の経済事情のなかで成長した世代でもあります。

阪神淡路は日本のボランティア元年とも言われていますし、東日本の惨状から復興の歩みを続ける世相の中で大人へと成長した新成人たち。これから社会の一員として輝ける世代になってほしいと願うばかりです。

会場となった加茂公民館では多くの保護者の皆さんも式典を見守っていました。成長した我が子へ向けるまなざしは暖かく、感慨もひとしおの様子でした。式典終了後には撮影会の様相となり、晴れ着に向けるカメラの列が途切れません。こんなことからも親御さんの愛情が感じられる、厳粛な中にも温かみを感じる素晴らしい成人式だったように思われます。

（大曽根T里山通信員）

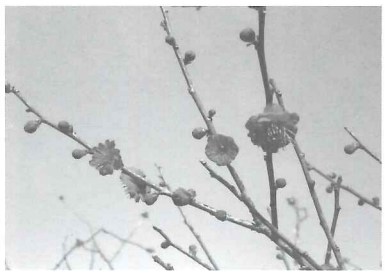
市原商工会議所コース　年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。

旧年中は、格別のご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

加茂地域の方々のみならず多くの方々から大変支持されている「加茂里山通信」を、継続して発行されていることに対し、大変な敬意を表し、一愛読者としてこれからも地域の情報をタイムリーに伝え続けていただきたいと思います。

さて、市原商工会議所は、地域経済の根幹を支える中小企業、その中でも小規模事業者の経営基盤の強化につながる、経営発達支援事業に取り組んでおります。昨年は、国の緊急支援を受け、地元の消費拡大と地域経済の活性化の呼び水とするために、「いちはら国府プレミアム商品券」を発行いたしました。さらに、「ひと、モノ、文化」の交流と賑わいを目指して、上総更級公園において5月から毎月1回合計8回のにぎわい市を開催して、皆様から大変好評を戴きました。年末には、市原市のオリジナリティーあふれる加工品、土産品、農産物を集めた「いちはら国府カタログギフト」を発行し、現在販売しております。



今年は、市原市の魅力を全国に発信していく「いちはら国府ブランド推進事業」、そして「地場産業育成事業」等を実施してまいります。特に、グローバル企業との共存を図りながら、地域の事業所が位置するローカル経済圏が、今、ひとつにまとまり“力”となる様々な事業を進めてまいります。

これからもまちの元気づくり運動を皆様と共に推進し、魅力がたくさん詰まった誇るべき市原になるために、PRIDE OF ICHIHARA「市原の誇り」をキャッチフレーズに、頼りにされる市原商工会議所を目指してまいります。

本年も皆様の一層のご支援、ご協力を心からお願い申し上げまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

（市原商工会議所会頭　榊原義久）

宝船プレゼント

今年も読者の皆様に、宝船のプレゼントです。

「大当たり賞」　3名様
「お年玉賞」　7名様
「超目玉賞・福袋」　6名様

計16名様に当たります。みなさん奮ってご応募ください。

住所・氏名・電話番号と里山通信へのご意見・ご感想を添えて**「宝船希望」**と明記してハガキでご応募ください。

290－0081
市原市五井中央西1－20－25
市原商工会議所
「加茂里山通信宝船プレゼント」係まで
締め切りは2月7日　当日消印有効

当選の方には直接ご連絡いたします。

賞品の引き渡し式は
2月14日(日)　午前10時
月崎の商工会議所加茂支部前で行います。取りに来られない方は無効になりますのでご了承ください。

当選確率はとても高いです　ふるってご応募ください

宝船プレゼントの協賛店・協賛企業は次の通りです。

角屋商店
川口屋
杉田建材
鈴木魚肉店
太陽工業
高山商店
デイリーヤマザキ市原高滝店
旅館加茂城

次回は**4月20日**発行予定です。

寒中お見舞い申し上げます

お買い物は地元の商店で！

市原商工会議所
会頭　榊原義久

市原商工会議所加茂支部
支部長　小茶常夫
役員一同

情報提供、取材依頼はお近くの通信員へ。
メールでも受け付けます。
紙面及び記事に関する意見、お問い合わせは左記へ。
市原商工会議所
0436（22）4305　担当　河崎
Eメール　kawasaki@i-cci.or.jp

編集後記

・昨年の暮れに放送されたドラマ「下町ロケット」をご覧になった方も多いと思われます。その主人公佃航平の「おっさんが夢見て何が悪い、町工場が夢見て何が悪いんだ」というセリフは世の中年の男たちに大きな感銘を与えたのではないでしょうか。小湊鉄道社長の石川さんが夢を形に変えました。公民館で、記者会見の場で、審議会の場で、あるいは列車の中で「里山トロッコ列車」のことを語るとき、実に嬉しそうなのが印象的でした。

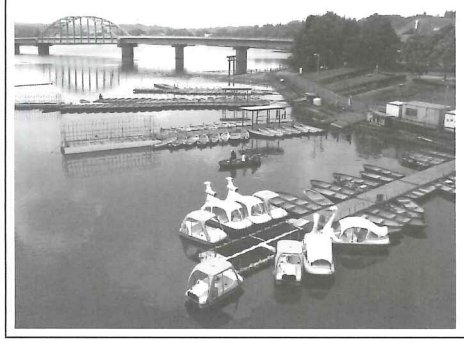
・前号のオールカラー版はお陰様で好評でした。商工会議所の加茂支部のメンバーの中には地域の人からもよかったよと声をかけられた人もいました。資金が整いチャンスがあればまた挑みたいと思います。

・南総と加茂のメンバーの恒例の交流会である忘年会を昨年も行いました。伝心柱と加茂里山通信は市原の商工会議所青年部の系列で唯二つ10年以上続いているミニコミ誌です。互いにライバル、しかし互いをよく知り、酒を飲み語る仲間でもあります。（征矢里山通信員）

房総・養老渓谷の地酒お土産は

養老渓谷駅前
角屋商店
養老渓谷観光協会窓口
市原市朝生原181
TEL0436－96－1108
FAX0436－96－0052

愛車のある幸せな暮らし
応援します！
安全・安心
有限会社　全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神227
TEL0436－96－0482
FAX0436－96－1293

皆様と共に歩む観光

ワカサギ釣り最盛期です！
高滝湖観光企業組合
TEL　0436-98-1277

加茂里山通信

平成28年
春号

発行　市原商工会議所
加茂里山通信編集部
編集長　　征矢貫造

加茂里山街道

里山トロッコ列車再開！

冬場を休み、再開が待たれた里山トロッコ列車が3月18日に走り始めました。まだ菜の花がそろわず桜など全くない時でしたが、多くのカメラマンが各所で撮影に臨みました。冬場も実は結構な回数で試運転を繰り返していて独特な汽笛が遠くにいても聞こえてきました。ああ、今日は走っているなとその汽笛でわかります。車掌も新しい黒い詰襟の制服に身を包み、先頭の機関車によく合っています。日を追うごとに菜の花は大きくなり、4月を迎えて桜も花開き、窓のない車両では花の香りに包まれてゆったりとした里山の列車旅を満喫しているようです。地元の人も 乗った感想を「まるで観光地に行ったみたい」と言っていました。養老渓谷では18日から3日間駅前で市原うまいもの会や産直、それに里山ファームの品が並びにぎやかでした。19日は大雨にたたられたものの20日は多くの人で養老渓谷駅前はにぎわいました。その後週末ごとに販売が行われていて養老渓谷駅前が新たな魅力を発信し始めています。

桜と菜の花の中を往く

新たな魅力発信！

竹を伐採し魅力ある地に

去年の真夏と今年の真冬に月崎駅から大久保駅に向かう途中の道路と並行して走る小湊線の傍らの竹林を伐採しました。これは市役所、小湊鉄道、里山連合、菜の花プレーヤーズなどの参加による人海戦術での竹林一掃の作業でした。飲み物とお昼のカレーが出るだけの作業なのに多くの人がかかわり、見違えるようにきれいになりました。その時現場にいた人が「人の力ってすごいよなあ」と思わず漏らした感想は、そこにいてかかわった人間たちの共通の思いだったと思います。

竹で奥の木も見えなかった頃を知る人には想像もつかないほどにきれいになったそこには、昨年菜の花の種がまかれ、今を盛りに花畑になっています。桜の木も植えられいずれ素晴らしい景観になっていくことと思います。

まだまだこれから魅力を増していきそうな小湊鉄道沿線です。

かつて竹林だったとは思えない景観

deはフランス語とのこと

花と新緑の加茂の里山

そしてその先へ

この地にいると春先の変化は本当に魅力に富んでいるなと感じます。各駅は菜の花につつまれ、桜が咲くとその菜の花とのコントラストは見事です。また新緑の芽もそろわない頃に山のあちこちに花開く山桜もいつも楽しみです。岩ツツジやボケや桃の花が咲き、ようやく新緑の芽が吹き始めます。毎日のように景色は変化していき、うぐいすの鳴き声も少しずつうまくなっていき、田に水が入るようになるとカエルの鳴き声が聞こえ始めます。フキが大きくなり、タケノコが出始めます。ゼンマイやこごみも採れ、セリやクレソンも育っています。

過疎化が言われて久しい加茂地区ですが、人の動きがあり徐々に変化が表れてきています。外と内と双方からの確実な変化です。

（征矢里山通信員）

菜の花畑を行くトロッコ列車

復興支援事業

加茂の心意気を福島に！

昨年夏号でご報告した通り、昨年の春におよそ450本ほどのタケノコを福島県いわき市久之浜に持っていきました。当日の朝、集める対象にしていなかったフキを持ってきてくれた人たちがいて、これも現地で喜ばれました。そこで今年はタケノコだけでなく、フキも併せて持っていきたいと考えています。

昨年行った時には浜に築かれていた防波堤の高さに圧倒され、また土台だけ残り更地になったままの浜近くの土地に津波のすさまじさを実感しました。

私たちにできることは大したことではありませんが、里山の恵みである山菜を持っていくことくらいはできます。イノシシにやられたところもあると思いますが、それでも今月の下旬頃にはタケノコがぼこぼこ出て来るはずです。タケノコもフキもたくさん持っていきたいと考えています。昨年は450本くらい集まりました。今年は1000本を目標に募集します。

この加茂地区からたくさんのタケノコとフキを持っていくために多くの皆様のご協力をお願いいたします。詳細は左記のとおりです。

フキも大人気でした

タケノコの袋詰め作業中

タケノコとフキを被災地に持って行きます

ご協力お願いします！

実施日時　4月24日（日）
7：30～8：00AM
集荷場所　市原商工会議所加茂支部
（月崎　高山商店裏）

主催　市原有志の会
（代表　藤田和利）
市原商工会議所加茂支部
加茂里山通信

加茂学園1年生は次号で紹介

春号恒例の加茂学園1年生の紹介を今年度も次の夏号で行います。新学期のあわただしい中での先生方のご負担と、まだ学校に馴染んでいない1年生の硬い表情を考慮しました。夏号では生き生きとした1年生たちの姿を紹介したいと思います。

（里山通信編集部）